

秋まき小麦「ゆめちから」のは種量の適正化

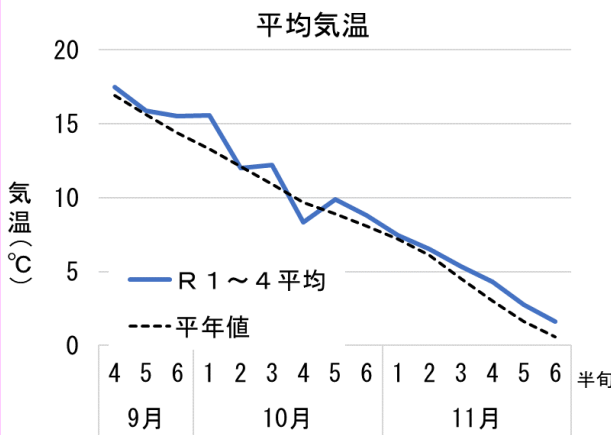
～気象とは種時期に応じたは種量で倒さず丸々した麦を～

活動年次：令和3～5年
 対象：JA道央千歳市麦採種生産部会13戸

石狩農業改良普及センター本所

1 課題設定の背景

近年、は種時期～越冬前の気温が高め

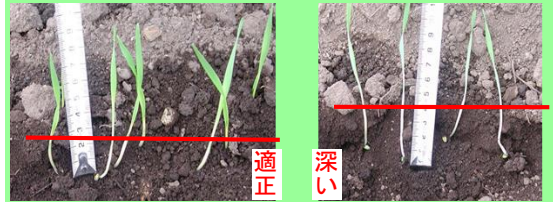


地域のは種量は、標準より多め

は種時期	は種量		
	重量 (kg/10a)	粒数 (粒/m ²)	
道央の標準は種量	9/19~20	7.2~8.0	180~200
J A 道央千歳 種麦生産部会 R2~4産平均	9/16	8.3	210前後

茎数が多くなり倒伏のリスクがある

は種深が深いため分けつが劣り、茎が細い事例がある



適正
 正常に分けつし、茎が太くなる

深い
 は種深が深い
 分けつは少なく、茎が細くなる

9/4半旬～11/6半旬の積算気温	
R1~4平均	727 °C (平年比 108%)
平年値	673 °C

※千歳市アメダス
 平年値は2003～2020年の平均

改善の方向性

気象、は種時期に応じたは種量
 は種深度の適正化
 茎数に応じた追肥体系の実施

秋まき小麦の安定生産

2 活動の経過と内容

(1) 活動経過

麦採種生産部会とJAに趣旨の説明
 (R3年4月、R4年9月)

試験ほ設置

- ・は種量比較 (R3年産)
- ・追肥試験 (R4年産)

実態調査 ～JAと共同～

- ・茎数、収量：4～7月
- ・出芽率、は種深度、越冬前茎数、葉数：9～11月

適正は種の呼びかけ

- ・FAX情報の発信 (9月)
- ・戸別巡回 (9月)
- ・講習会 (小麦生産者対象：12月)

生産部会に経過を資料等で情報提供
 調査結果を個別に返却

(2) 活動内容

ア は種量の低減による効果を情報提供







- ・ 根量の増加
- ・ 耐倒伏性の向上

は種量を低減しても
茎数は確保でき
根量が増加する

イ 適正は種の呼びかけ
～FAX情報、講習会～

①は種期とは種量

②は種床造成方法の適正化

は種量 (粒/m ²)	葉 数	根 量	根の 乾物比	茎数
5.7kg/10a (120粒/m ²) 参考：少量は種	 7.1葉		186%	1258本/m ²
8.6kg/10a (180粒/m ²)	 6.7葉		135%	1336本/m ²
9.5kg/10a (200粒/m ²)	 6.3葉		100%	1816本/m ²



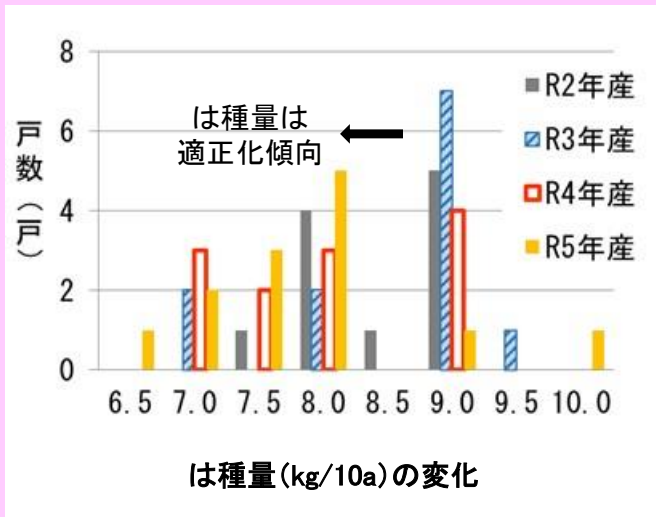
は種前鎮圧施工の様子

は種日：R2/9/17

調査日：R2/11/13

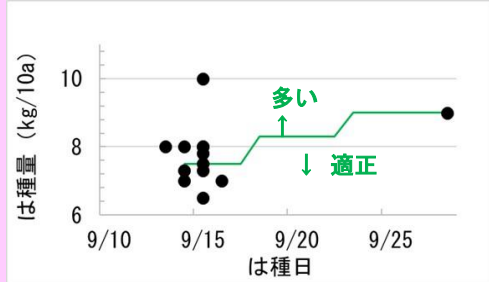
3 活動の成果 *****

(1) は種量の適正化



は種日とは種量 (部会平均)

は種日	は種量(kg/10a)
R2年産 9/16	8.5
R3年産 9/18	8.5
R4年産 9/14	8.0
R5年産 9/15	7.8



は種日とは種量(R5年産)

(2) は種深度の適正化

平均は種深度	
R4年産	2.6cm
R5年産	2.6cm

「大型は種機を新規に導入したが
は種前に鎮圧したら、発芽が揃い
初期生育がよかった。」



4 今後の活動 *****

(1) は種深度の適正化

(2) 茎数に応じた追肥体系の実践